

令和6年度

徳島市城東中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

対話による合意形成をするための、語彙力の向上

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
根津道子	(校長)木屋村泰子(教頭)青木康友, 柴田明子 (主幹教諭)野本裕章 (指導教諭)河野浩美 (学年主任)細木香, 浜崎加代 (情報主任)中根貴之

校長
木屋村泰子

【小中連携または中高連携における共通の取組】

語彙力の育成

【各校の取組状況の把握について】

各校の授業参観や「学校力向上コラボレーション事業」の研修をととして把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業規律を守って学習に取り組み、授業内容が理解できたと答えている生徒が多い。 ●学力の二極化傾向が見られる。長い文章を読み取ることを苦手とする生徒も多く、全体的にも基礎的・基本的な知識・技能が十分に定着しているとは言えない。	・対話による合意形成をめざし、話し合いのスキルを高めたり語彙力を身につけたりしようとしている。	・生徒が主体的に語彙力を高められるよう、授業で扱う課題や指導方法、評価について各教科で研究する。 ・「学び合いウイーク」や「ガーベラ会(メンター制)」, 各種校内研修を設定し、ICTの活用や指導技術の向上をめざして教員同士で情報交換や研究を行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達や先生の話聞き、今後の学習の参考にすることができる生徒が多い。 ●複数の考えから新しい考えを生み出したり、自分の意見や考えを相手にわかりやすく表現することが苦手な生徒が多い。	・言葉を工夫しながら使い、自分の意見や考えを的確にわかりやすく伝えることができる。 ・自分の意見や考えを、相手の意見を尊重しつつ伝え合うことができる。	・ホワイトボードミーティングの手法を用い、意見交換の場を積極的に設け、生徒が考えをまとめたり、思いを表現したりできるようにする。 ・単元の振り返りやレポートの作成、作品作りなど、記述したり表現したりする活動を全教科で積極的に取り入れる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業には落ち着いて取り組んでいる。また、テスト実施前には学習計画の立案や目標点の設定等を行うなど、前向きに学習に取り組む生徒が多い。 ●与えられた課題に対して真面目に取り組むが、自ら学びを調整しているとまでは言えない生徒がやや多い。	・学習計画の立案や振り返りを行い、自己の学びを調整できる。	・授業では「めあて」の提示や「振り返り」を必ず行い、生徒が習得すべき内容を明確にする。 ・「学力を伸ばしたい人のための生活改善10か条」や「徳島市キャリアパスポート」を活用し、将来への見通しを持って自律した学びが実現できるよう、目的意識を持たせる。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

